

エアウィン[®]調製・投与方法ガイド

エアウィン[®]の用法及び用量

通常、成人にはソタテルセプト(遺伝子組換え)として初回に0.3mg/kgを投与し、2回目以降は0.7mg/kgに増量し、3週間ごとに皮下投与する。

体重別の初回用量・維持用量における投与量は、以下の体重別投与量早見表をご覧ください。

体重別投与量早見表

0.3mg/kg(初回用量)

体重(kg)	投与量(mL)	標準分量バイアル
30.0～40.8	0.2	45mg
40.9～57.4	0.3	
57.5～74.1	0.4	
74.2～90.8	0.5	
90.9～107.4	0.6	
107.5～124.1	0.7	
124.2～140.8	0.8	60mg
140.9～157.4	0.9	
157.5～174.1	1.0	
174.2～180.0	1.1	



実寸大

0.7mg/kg(維持用量)

体重(kg)	投与量(mL)	標準分量バイアル
30.0～31.7	0.4	45mg
31.8～38.9	0.5	
39.0～46.0	0.6	
46.1～53.2	0.7	
53.3～60.3	0.8	
60.4～67.4	0.9	
67.5～74.6	1.0	60mg
74.7～81.7	1.1	
81.8～88.9	1.2	
89.0～96.0	1.3	2 x 45mg
96.1～103.2	1.4	
103.3～110.3	1.5	
110.4～117.4	1.6	
117.5～124.6	1.7	2 x 60mg
124.7～131.7	1.8	
131.8～138.9	1.9	
139.0～146.0	2.0	
146.1～153.2	2.1	
153.3～160.3	2.2	
160.4～167.4	2.3	
167.5以上	2.4	

アクチビンシグナル伝達阻害剤

薬価基準収載

エアウィン[®]皮下注用45mg
皮下注用60mg

ソタテルセプト(遺伝子組換え)製剤

AIRWIN[®]

生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品 (注意一医師等の処方箋により使用すること)

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)
- 2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2.2 本剤の投与開始前の血小板数が50,000/mm³未満の患者[9.1.2参照]

本剤の「効能又は効果、注意事項等情報」等については電子添文を参照ください▶



本剤は、バイアルの規格によって溶解に必要な注射用水の量が異なります。

- 45mgバイアルの場合：注射用水1.0mLで溶解してください。
- 60mgバイアルの場合：注射用水1.3mLで溶解してください。

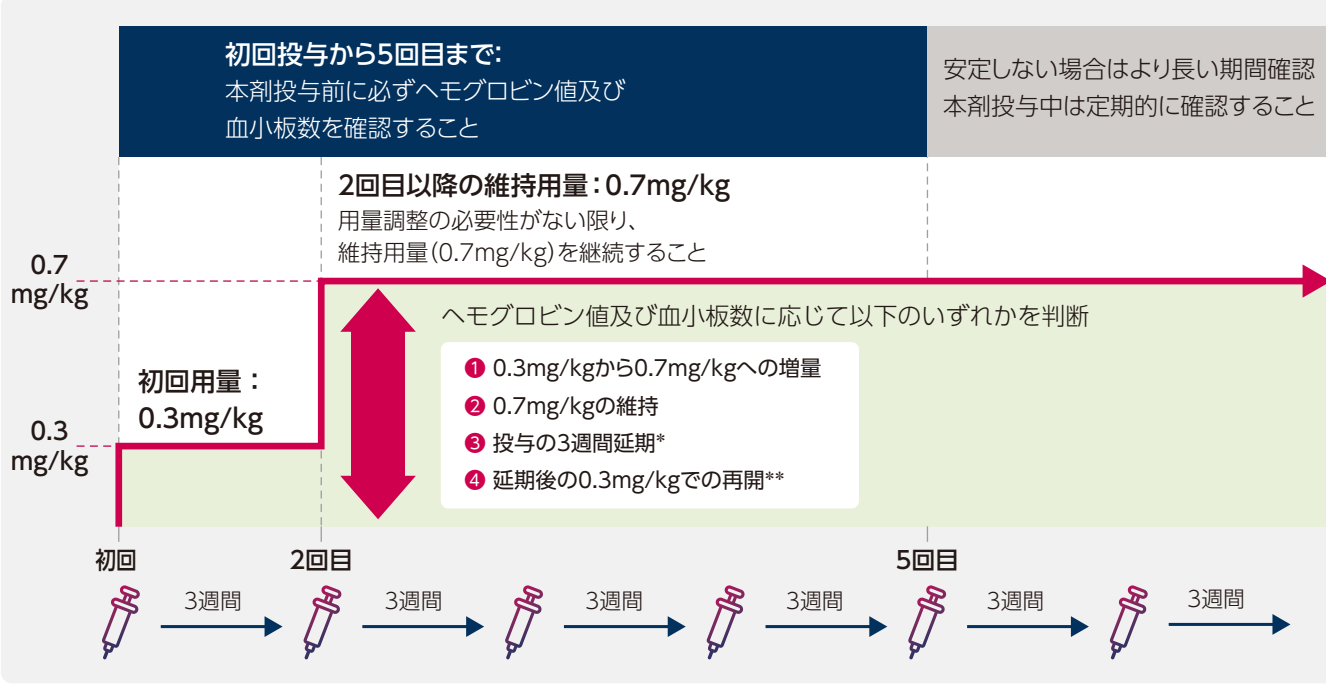
投与に際しての注意

- ・エアウィン[®]の投与開始前及び投与中はヘモグロビン値及び血小板数を測定してください。
- ・エアウィン[®]の投与中は、下図を参照のうえ、増量、維持又は投与の延期を行ってください。

エアウィン[®]投与中に実施する血液検査項目

- ・ヘモグロビン値
- ・血小板数

増量、維持又は投与延期基準



投与基準値			
血小板数50,000/mm ³ 以上			
* 投与の3週間延期基準値			
ヘモグロビン値の増加が前回の投与時から2.0g/dLを超え、かつ基準値上限(ULN)を上回る	ヘモグロビン値の増加がベースライン値から4.0g/dLを超える	ヘモグロビン値がULNより2.0g/dLを超える値に増加する	血小板数が50,000/mm ³ 未満に減少する
** 投与再開時の注意			
血小板数が50,000/mm ³ 未満に減少後に投与を再開する場合及び前回投与からの投与間隔が9週間を超える場合、初回用量(0.3mg/kg)から投与再開			

- ・投与予定日に本剤を投与できなかった場合は、可能な限り速やかに投与すること。
- ・本剤の投与予定日から実際の投与日が3日を超えた場合は、そこから3週間の投与間隔を維持するようにスケジュールを調整すること。
- ・過量投与によりヘモグロビン増加及び血圧上昇があらわれることがあるため、異常が認められた場合には投与中止等、適切な処置を行うこと。本剤は血液透析により体内から除去されない。



製造販売元
MSD株式会社
〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
<http://www.msd.co.jp/>

2025年8月作成
WIN25PH0091

エアウィン®調製・投与方法ガイド

調製・投与方法は動画でもご覧いただけます。



1 ご用意いただくもの

バイアルの必要数・投与量については裏面の**体重別投与量早見表**をご覧ください。



調製方法

- 01** バイアルのキャップを外し、ゴム栓表面をアルコール綿で清拭します。
- 02** 注射用水で本剤を溶解します。いずれのバイアルも最終濃度は50mg/mLとなります※。

45mgバイアルの場合
1.0mLの注射用水をシリンジで吸引し、45mgバイアルに注入する。

60mgバイアルの場合
1.3mLの注射用水をシリンジで吸引し、60mgバイアルに注入する。

※ 本剤は、調製時の損失を考慮し、1バイアルからソタテルセプトをそれぞれ45mg又は60mgを注射するに足る量を確保するために過量充填されています。
- 03** 緩やかに渦を描くようにバイアルを回して本剤を溶解します。強く振ったり攪拌したりしないでください。
- 04** 大きな気泡が消失するまでバイアルを最大3分間放置します。
- 05** 溶解後の液について、下記を目視で確認してください。
 - ☐ 大きな気泡がない
 - ☐ 澄明または乳白光、無色またはわずかに褐色がかかった黄色である
 - ☐ 塊や粉末がない
- 06** 2本のバイアルが処方されている場合は、01～05の手順を繰り返し、2本目のバイアルも調製してください。
- 07** 溶解後は速やかに使用してください。
すぐに使用できない場合は室温で保管し、**4時間以上**経過したものは**廃棄**してください。

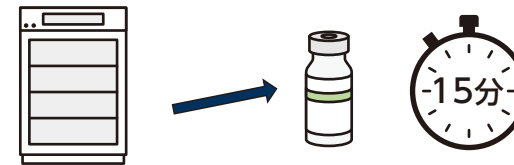


本剤は、バイアルの規格によって溶解に必要な注射用水の量が異なります。

- 45mgバイアルの場合：注射用水**1.0mL**で溶解してください。
- 60mgバイアルの場合：注射用水**1.3mL**で溶解してください。

2 調製前の注意事項

投与の約15分前に冷蔵庫から取り出し、室温に戻してから調製してください。



調製前に以下を確認し、異常が認められる場合は使用しないでください。

- ☐ 有効期限内である
- ☐ 白色の塊または粉末である

投与方法

- 01** 0.1mL目盛りのシリンジを用いて、1本または2本のバイアルから適切な投与量の薬剤を吸引します。

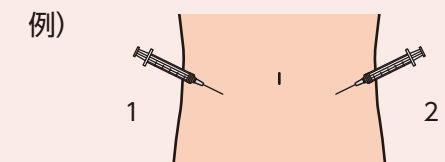
投与量については裏面の**体重別投与量早見表**をご覧ください。
- 02** 投与部位を選択します。
- 03** アルコール綿で投与部位を清拭後、皮下注射を実施します。

投与部位に関する注意

瘢痕、圧痛または挫傷のある部位を避けます。



投与ごとに注射部位を変更してください。



投与後の注意点

- 患者さんに、投与部位を圧迫したりもんだりしないようにご指導ください。
- 投与部位の痛みや体に異常を感じた場合は、すぐに主治医や看護師、薬剤師に相談するよう、ご指導ください。